

事前試験研究

研究課題：希少魚類生息調査

担当者名：加地 奈々

予算区分：県単

研究期間：平成 23～24 年度

背景および目的

本県には河川や湖沼をはじめ、ため池や水田などの多様な水辺環境が形成され、多くの魚類を育んできた。しかし、近年、河川改修や圃場整備に伴う河川や水路の護岸化、堰堤の建設、水質汚染等により、魚類を取り巻く環境は著しく悪化し、山梨県版レッドデータブックでは 3 種 4 亜種が絶滅もしくは絶滅危惧種に指定されており、これらの魚類については重点的な保全対策が急務となっている。本調査では絶滅危惧Ⅱ類に指定されているメダカについて、生息状況の把握を目的に調査を行い、保全対策に資する。

材料および方法

○在来水域の推定

これまでの県内におけるメダカの生息情報を収集し、過去の生息の有無、放流履歴および現在の水路状況を確認し、在来メダカの生息水域を推定する。

○生息状況調査

非灌漑期に在来メダカ生息水域において生息状況調査を行う。水域内に複数の調査区を設定し、現在の生息の有無および生息個体数を確認する。

○生息地の環境調査

調査区内において、水温、水路幅、水深、流速、底質、護岸状況、植生等の環境条件を測定し、生息状況調査と併せて生息地の評価を行う。

期待される効果と今後の課題

○現在のメダカ在来個体群の分布および生息状況が明らかになることで、保全・復元すべき生息地が明確になり、希少魚の保全計画へ活用できる。

○本種の生息に適した水田や用水路などの環境は、開発や圃場整備等により消失しやすいため、成果については市町村や保全に取り組む地域住民と情報を共有し、連携をとりながら保全計画を進めていく必要がある。